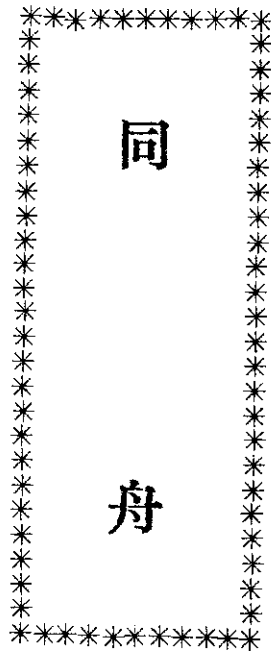


東京都宅地建物取引業協会
府中支部

昭和42年
5月号通信
第41



昭和四十二年五月十日発行
発行 者 東京都宅地建物取引業協会
府 中 支 部
発行責任者 高野 豊次

記	事
八、 編集後記	一、 第三回支部理事会開催
七、 官学と私学	二、 貸家貸問の公営問題
六、 白川郷	三、 人と店
五、 チヨロ船	四、 私見

第三回(五月定例)支部理事会開催

と き 五月九日午後四時より

ところ ダイワ不動産

出席者 平井、横峠、山岸、栗山、結城、

辻、加藤(武)、山村、吉野各理事

鈴木監事、高野

一、山村支部長よりの報告事項

(イ) 支部理事補充選任の件、

加藤(嘉)理事死亡に伴う補充として
関谷鉄之助氏が理事として選任された
旨報告あり。

(ロ) 本部理事会の件

四月十七日及び五月九日本部に於て理
事会があり次の報告があつた。

A 代議員選出について

(註)四月号を以つて報告した代議員は

山村、辻の両氏であつたが今回支

部長以外に二名の代議員を選出す
ることとなり、加藤(武)氏が一
名追加された。

B 業法改正対策委員会について

C 世田谷日下部建設を会員より除名
について

D 福祉共済会設立について

(ハ) 三多摩地区協議会の件

今回本部指令に基き各地区をブロック
とした協議会を設立することとなり従
来の三多摩協議会は三多摩地区協議会
と改名することゝなつた。

会長 中山氏、副会長 二官氏と決定

(ニ) 市町村議員当選慰労会の件

今回の統一選挙で三多摩地区では同業
者、十九名が市町村議員に当選したの
で五月十一日福祉に於て慰労会を催す
ことゝなり、当支部よりは、山村、辻、

栗山、吉野各理事が出席する。

(ホ) 府中市長と懇談の件

吉野理事の肝いりにより近く府中市長
と当支部役員が懇談するの予定である。

二、吉野理事よりの会計報告

吉野会計担任理事より五月九日現在の

当支部

当座預金額は 九七、六六五円

手許現金は 一二、三五四円

ある旨の会計報告あり

三、結城理事よりの指導事項諮問

結城指導担任理事より当支部会員の
一部に発生した不祥事件につき如何に処
理すべきかの諮問に対し各員夫々の意
見開陳があつた。

四、協議事項

支部役員が本部の指令に従い遠隔地に
出張した場合の実費は従来支給したこ

五、会員に依頼事項

ともあり、本人が自弁したものである
が、協議の結果今後は一回二、〇〇〇
円の打切支給をすることに決定した。

慈善事業の一つとして今回日本キリス

ト教会海外医療協力会より古切手の送

付方を依頼越につき会員諸君は精々こ

れに協力せられんことを依頼する。

古切手 (手紙に貼付されたスタンプを

種類枚数制限なし)

送付先 千代田区神田三崎町一六三崎ビル内

日本キリスト教会海外医療協力会

六、周知事項

今回新規に従業員証明証が出来上りに
つき、希望の向は一冊三〇円につき、
支部又は担当理事に申込みたい。

貸家貸間の公営問題

高野生

去る三月廿四日府中市の市会本会議でY議員から「庶民の負担軽減のため貸家貸間の斡旋を公営にする考えはないか」との質問に対し矢部市長は「これはなかなかむずかしい問題であるが市民の要望があれば検討したい」と応答があつた旨の市議会報（四月廿九日発行）を拜見した。

尤もどんな考想で斯様な発言をしたのかその理由はわからないが仮りに貸家貸間の斡旋を公営にしたところで家賃や礼金敷金を割引する馬鹿な家主もなく結極は現行建設省令で定められた斡旋手数料を市が無料でやるか或は定められた額以下でやらなければ庶民の負担は軽減しないし一方吾々業者と競争することも出来ない結果となる。

吾々業者は実理に合はぬことはどこまでも反対するにやぶさかでなく、その一例として昨年度の如きは法律で改正された業法さえ一期にしてくつがえした経験もあり万一府中市会がそうした条例でも作つたとしたら都内一万の業者が打つて一丸となり全力を挙げて排除に努めるであらう。

要は吾々業者としては斯る発言には何等おそれることなく現行建設省令の定むる報酬額に忠実である一方信義誠実をモットーに免許業者として社会的重責を荷り一員であることを忘れてはならない。

そこで若しそう云うことが実現すれば借家する一部の庶民からは一応結構なこととして歓迎せらるゝかも知れないがそれは市長の言ひ如くなかなかむずかしい問題であり市吏員の片手間で行われるが如き花火線香的な甘い考えとしたら実に軽薄である。

今仮りに市吏員の片手間によることなく市が直接貸家貸間の斡旋する課乃至は係を設けることゝせんか斡旋手数料のみでは経費一切を賄えるかどうか実に疑問である。若し経費が賄えないとしたら貸家貸間に何等関係のない市民までがそれ丈の重税を課せられることとなり色々の面で逆反応を呈することとなるが吾々はそれをおそれる者である。

然も時代は正に公営を廃してすべてが民営に移管するの時であるにも拘らず斯る安易な考え方は時代錯誤も甚しく軽々しく為政者の口にすべきでない。

人と店

稲城町矢野口に辰巳不動産がある。経営者は角田清君で地元稲城の産、本年三十五才というから正に働き盛りである。

君は川崎商業高校を卒業後直ちに稲城町役場に就職したが、昭和三十八年の取引主任者資格試験に合格を機として三十九年四月同地で不動産業を開始した。

根が蒙放で小事にこだわらずお世辞こそいわないが実直そのもの特に機をみるに敏な、真の活動家である。

それかあらぬか最近に於ける不動産業の景況に鑑み、本年三月辰巳通信建設会社（株）を創設一般土木部と不動産部を併置した。

今後は通信事業にも手を染める計画で目下は河川の護岸工事に専念しつつある。

不動産部の社員は二名であるが土木部は、

四十数名を使用し男一匹正に得意中の得意である。

家庭には夫人のほか二人の子供があり趣味は野鳥の飼育と魚釣りである。
以つて自重自愛今後大いなる発展を祈つて止まない。

私見

高野生

第二回支部総会に於て不動産会館の建設に付いての意見が出た。

そしてこれが資金の割当があつた場合、府中支部としては同調しないことを主張した者がいる。

然し私の考えるところでは元来不動産会館の設立は一般どこにでもある株式組織が第一

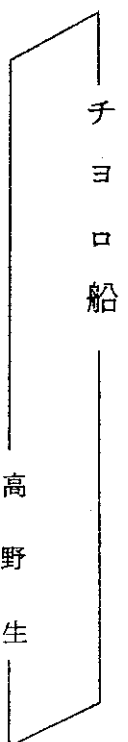
の条件であつて決して建設資金そのものを支部の頭数に応じて強制割当てをするようなことはない。

今仮りに府中支部に五十万円の割当てが来たとせんか、これは有利と認めたら一人独占で五十万円の出資を引受けてもよいし、いやだと思ふ人は一文の出資もする必要はない。これは所謂商法に基く純然たる営利の株式会社であつて、出資に賛成するか否かは各自の自由意志に委ねべきである。

世間には、三菱株を買う人もあり、住友の株を持つ人もあるが株式なんぞ一切ご免だと思ふ人は持たなくとも一向どこからも苦情が出ないと同様吾々には買わねばならない義務は毛頭ない。

若しそれ不動産会館の株式を募集しても計画数に満たない場合はこの会社は成立せずお流れとなるだけで吾々はあく迄も一人一人

の自由意志と判断により決定すべきもので何等おそろゝに足りないと思ふ。



瀬戸内海に全島が国有林になつておるところがある。

私がこの国有林を査察に行つたことがあるが、広島県の竹原から汽艇で約一時間、全島が松の林でおおわれ実に景色の良い島で、無人島かと思つたらそれでも京都から来たという陶匠とその奥様が二人暮しをしていた。思い様によつては、すきな女性と二人きりこんな島で暮すのも又おつな人世かもしれない。その晩はその署長の案内でこの島の目の先にある上島の木の江港に泊ることゝした。

この木の江港は九州と大阪を行き交う石炭船で賑うところだが、どの船もどの船もこの木の江港まで来ると必ず錨をおろす、もし船長が錨をおろすのを拒んだ場合船長をしばらくあけてでも一泊を強行するという船員にとつては大の慰安所があるからである。

それもその筈こゝの木の江港には昔から遊女が多く陸で稼ぐ者を甲部といい、海に出かけて稼ぐ者を乙部という。

夕方ともなると一艘の船に五、六人の遊女が乗りこんだチヨロ船が、五、六十も整然と、舳をそろえて並列する、即ち乙部の遊女である。

午後六時検番のラッパ合図にこの船は一斉に沖へ出る。そして沖でタラップを卸して待ちける石炭船に行き、一夜の妻を契約するわけだが、遊女は赤い腰巻きを巻きあげて阿修羅玉の如く船に昇つてゆく、そのさまは、

白川郷 (続二)

高野生

あわれというよりも寧ろ勇壮である。
待ちうけた船員と交渉し、交渉が成立すれば早速、船員の汚れものを洗濯し、夕飯を炊き、一献かたむけてから愛情こまやかな一夜妻となるが、交渉が不成立の場合はあの船からこの船へと渡り歩き、それでも売れない遊女は泣きなき置屋へ帰つて行く。

翌朝になると昨夕のチヨロ船が迎えに来るので遊女達は末ださめやらぬ夢心地でハンカチをふりふり、かの船員と別れを惜しむのである。

従つて彼女達にとつては夜の六時から八時ころまではさながらの戦場であり、ランプを付けたチヨロ船が右に左に行き交り情景は一大絵巻物でもある。

この遊女達も今は売春禁止法によつて影をひそめたが、あの大勢いた遊女達は何処へ行つたのやら？.....

百姓が道は十分広いのに、つれておる牛を道傍の草むらに押しこめて私の通行を待つという状態でこんな風景は村のどこかしこにも見受けられたものである。

兎に角この村での官員は大したもので特に若い署員は色々とうまいことをすることが多かった。そして相手が若し妊娠でもしよりのなら他署へ転勤運動をし姿を消せばそれまで、後くさりは更にない。先輩Y氏は相当な地位まで昇つた人であるが昔をたずぬれば矢張り転勤運動をして姿を消した者の一人だとさく。

今時分この村を訪ねるとしたら或は「おとうさん」と呼ぶ子供が幾人かが出てくるかもしれない。
(以下次号に)

白川郷は概ね平家の落人であるという。従つて名前も大戸肥太盛とか谷口竹盛とか平家の盛の字を使う人が多い、そして昔から忍びに忍んだ生活をしてきた丈あつて大低のことには耐え忍ぶ心の持主が多い。

丁度私が白川郷へ赴任した頃より所謂百万円道路(今からみれば百万円は実におかしいがその頃の百万円は大したものである)が村を買通することになり退々と自動車やバスも通ることになつたが村人は自動車をなんか来なくともよい、そつとこのまゝにしておいてほしいと願つたものである。それ程村人は純朴で騷擾を好まない。

そして村の衆が純朴だという証拠の一つに私が自転車で出かけるのを遠くの方から見

官学と私学

高野生

官立大学と私立大学の卒業生がどちらが優秀かといえは官学を出た人でもボンクラがあり、私学を出た人でも相当の地位まで昇つてゆく者もある。

然し中央官庁で云えば概して官学を卒業した者が出世し、私学は戦後上進の途は開けたというものの、大したポストに付き難く、精々課長補佐止まりである。

こうなると寧ろ中等学校(今は高校)を出た者と大差なく、ろろろすると中等学校出身者に使われる者さえある。

何んといつても官庁は官学万能で特に官学の内でも東大法科は特進組と称して最も出世が早い、尤も同じ東大でも技術畑になると出世が遅く、法科出が局長となる頃、技術畑の

者は漸く一課長にあるものもある。

唯私学で出世出来るのは法務省関係で判検事の中には相当数の私学出が上位にあるし、民間では官学より私学を優遇し、会社々長や重役となる連中が多い。

唯一つ私が感心することは、東大の法科を出た者が一見法律には縁遠いと思われる技術畑の長官や局長になることである。殊に昨日までは畜産の仕事をしていた局長が全然風変わりな蚕糸へ移つても結構一人前の仕事をやり遂げることで、いりならば呑み込みと頭脳の回転が早いせいなのであろう。

マツカーサーが来て官学と私学はその取扱を区分せず同一視することになつたというが今以つて官学には官学の根強い団結力があり重要なポストには必ず官学者をもつていくのでこれを私学が打破することが出来ないので残念である。

凡そ人間の頭脳は普通人なら官学私学を問はず、その大差のあるものでないので官庁でも切れる人は私学出といえどもつと優遇すべきである。

編集後記

○ 五月の空は鯉のぼりが吹き流され樟並木もすがすがしい、菜の花も今が満開である。

○ 気候よし、食べ物はいまい、然し景気は依然沈滞。

○ 府中祭も済んだ、吾々の仕事もこれから忙がしくなればよいが。

○ 新理事の面々で色々と変つた意見が出る洵に結構である。

昭和四十二年五月九日夜しるす

高野 生

